

②開場時間ごろに来場、焦らずゆっくり会場を回るゆったり参加タイプ

◆傾向と対策>『必要十分な準備』でさらに1ランク上の余裕を!!

自分のお目当てのジャンルがそれほど大規模ではなかったり、大手狙いなどではない参加者はもちろん、コミケットそのものへの参加経験が浅いビギナーさんにも最も向いた参加スタイルだろう。

早朝から会場に入る明確な理由が思いつかないならば無理に早く行く必要はない。朝の入場待機をしない（あるいは短く済ませる）だけでも、必要な装備も、消耗する体力も驚くほど少なくなる。また、朝に余裕を持つということは、朝食をしっかりと摂れたり、混む交通機関に無理に乗らずにすむ、サークルさんへの差し入れなどを当日でも手配できるなどメリットも多い。

ただし、逆に並び、待機する、といったことに対する用意を軽視し過ぎないことも大切だ。短時間でも入場待機列に並びなれば、あるいは会場で企業ブースなどへ向かうつもりがあるのならば、最低限きちんとした防寒・防風を考慮した衣服を用意しておくのは鉄則なのだ。

『準備するものが少なくて済む』のと『準備しなくてもよい』は同義語ではない。自分のプランには余裕があるつもりでも、会場や当日の天候などの状況は予測できない方向に変化する場合もありうるので、決して甘くは見ないこと。

③入場フリー以降来場、友人との交流やコミケットの空気を楽しむタイプ

◆傾向と対策>『和やかコミケ作戦』を実行しコミケットのムードメーカーたれ!!

会場でもサークルからサークルへ寸暇を惜しんでリストを消化していくような活動をしないので最も余裕がある参加者と言えるかもしれないが、その余裕の共有を他の参加者に強制しないよう注意が必要だ。例えば自分のお気に入りのサークルのスペース前にずっと陣取って話し続ける、その場でのスケッチブック描きを要求する等は立派な迷惑行為だ。

会場に居る間の主な目的がコミケットという場を楽しみたいからだとするならば、思い切ってより積極的にこのお祭り空間を楽しめるものとするよう能動的に行動してみても如何だろうか？

コミケット準備会のスタッフはもちろん、清掃作業スタッフや分別回収ボックスのスタッフなど、会期中も大勢の方が働いている。そういったスタッフの人たちに折々を見て『お疲れ様です』と挨拶をしてみよう。さらに、重そうな荷物を持って難儀している参加者や迷子、その他困っていたり、体調が悪そうにしている参加者を見かけたら、積極的に『手を貸しましょうか?』と声をかけてあげよう。

こういうアクションは例えばビギナーだからといって遠慮する必要はないし、技術的に難しいようなことでもない場合がほとんどなので、要するにあなたの気持ち次第なのだ。

そして何より、時間に余裕さえあるならば是非、コミケット開会前の設営作業や、閉会後の撤収作業に参加してほしい。自分の手でコミケットを作っている手応えは一度体験したら病み付きになるものだ。一度体験してみても損はない。

このタイプの参加者は全参加者の中でも最も精神的にも体力的にも余裕がある。その余裕をコミケットという場そのものに使うことができれば、もっと和やかに満足できる時間を過ごせるはずだ。

そうして、アナタから発信された行動はそれを受けた誰かをハッピーな気分にする。その輪が広がっていけば、コミケットはもっと素敵な場所になる。そのきっかけを作れるのは結構スゴイことなのだ。ほんの少し、勇気を出してみしてほしい。



④とにかく企業ブースのグッズ以外に用はないアイテムハンタータイプ

◆傾向と対策>まずは『コミケットのルール』を知り、ついでに周囲とうまくやろう!!

最近急速に増えている同人誌ではなく企業ブースで販売される限定グッズ目当ての参加者の皆さんの中には、コミケットそのものにはほとんど関心がない、という方も少なからず居るようだが、企業ブース自体がコミケットという会場の中にある以上、関心が無くても、あなたはコミケットの参加者なのだということは